

年 頭 の 辭

會 長 山 岡 武

昭和 24 年の新春を迎ふるに當り、終戦後の波瀾重疊の過去を顧みつゝ會の現状を申し述べ將來に對し、會員諸君の絶大なる御協力を御願ひする。

我が協會は現在會員約 5 千人、本年を以て創立將に 35 周年となつた。大正 4 年 2 月、時の人野呂博士、香村博士、今泉博士、俵博士、服部博士等諸先輩の首唱に依りて設立せられ今日迄 35 年の永い間常に我が國鐵鋼業の先驅として、或は學術方面に或は技術方面に幾多の有益なる研究と意見の發表をなし、我が國鐵鋼業の發達に寄與する所大なるものがあつた。

終戦後未嘗有のインフレに遭遇し諸物價は暴騰し最も大なる打撃を蒙つたのは毎月の會誌の發行であつた。鐵鋼協會の主たる事業の一は會誌の發行である。

大正 4 年 3 月の第 1 號發行以來大正 12 年 9 月の關東大震災の時を除く外は毎月着々と發行して來た會誌も昭和 19 年 11 月 30 日の空襲にて永年印刷を依頼せる三秀舎が焼失して印刷中の會誌や鐵鋼要覽も灰燼に歸するとか、終戦後の諸物價の騰貴、用紙割當の不足に加えて會員の移動住所の不明等にて、會費の納入も豫期の如くならず、萬一に備えたる基本資金は第二封鎖となり、會の經理は非常の苦境に陥つた。この爲專務事務員も半減するとか、あらゆる經費の節減を計ると共に止むを得ず會誌の紙數を減じ遂には 2、3 ヶ月分を合併してこの苦境に對處した。

然し何時迄もこの状態に甘んず可きものに非ず、昨年初頭より何とかして會誌の毎月發行を復活せんと決意し、あらゆる努力を傾注してようやく昨年 7 月より毎月發行する迄に恢復した。然しこれとて僅に 20 數頁の小冊子に過ぎず紙質、裝幀等決して満足のものではない。

今後會員諸君の積極的御援助により會費の納入を勵行し一方維持會員等の絶大なる御援助によりて會誌の内容充實を實現せんと企圖しつゝある。

講演會は終戦後交通機關の改善、社會状態の安定するに及んで毎回盛大となり常に有益なる多數の論文が發表せられつゝあるは眞に同慶の至りである。

次に昨年 8 月成立したる鐵鋼協會と商工省技術委員會と鐵鋼會（現鐵鋼連盟）の技術會との三者の連合各部會は着々と其の成果を納め時局に即應せる諸問題をとらえて適切なる研究解決を下して居る。

更に昨年 10 月より商工省鐵鋼局長の依頼に應じ將來の我が國鐵鋼對策の基礎資料を得る爲めに、製銑設備調査團、製鋼設備調査團、特殊剛設備調査團を組織し全國の各設備の現状の調査に協力した。此等も一に我が國の復興と我が國鐵鋼業の健全なる發達を念願するが爲めである。

年頭に當り、我が鐵鋼協會の概況を報告すると共に將來に對して會員諸君の絶大なる御協力を期待する次第である。